

2010年
9・10月号

TOKYOタイムズ トキオ

NO. 98
岩本工業 (株)

ホームページ <http://www.iwmt-kg.co.jp/>

Eメール: iwamoto@iwmt-kg.co.jp

「Q(高品質)・C(低価格)・D(短納期)とWの更なる追求」

H22年8月吉日 岩本 博之

Qは品質 (Quality)、Cはコスト (Cost)、クオリティやコストで代表的なブランドは「ユニクロ」。Dは納期 (Delivery)・・・デリバリーその物の意味では宅配ピザですが、手軽さの面ではコンビニや吉野家の牛丼、マクドナルドのハンバーガーをイメージすると解り易いのではないのでしょうか。何れも働く人達は接客マニュアルに乗っ取りカレンダーの赤印(休日)が繁忙期で、且つ若者だけの職場です。

翻って鉄工業界はと言えば若者・中年・老年がお互いの技術に敬意を払いながら就業できる職場です。しかしながら中国・ベトナム・インドの低賃金をバックにした追い上げが厳しく、国外生産へと工場が移転し国内空洞化という厳しい現実と直面しております。

前号社内報No. 97の巻末には、「純血主義」正社員だけの構成で機械の夜間無人稼働や一ヶ月700時間稼働に関しても見直さざるを得なくなりました。・・・この発信に対し先ず人手は、中途採用2名・派遣社員5名・アルバイト8名・定年退職者の応援7名を7月中に確保。中国人雇用は西村常務(赤井鉄工社長が同行、サポートして頂きました)が7月12日上海出張で3名人選し来年1月より入社します。700H稼働の旗を降ろす事無く、更に明確に360日稼働を目指します。20時～7時を無人稼働させる事が大前提ですが「多品種少量品」で実行するのは物凄く高いハードルです。東南アジアの低賃金や大量生産を土俵にした分野では勝ち目はありませんが、少量品で高品質な分野は優秀な日本製の5000万円～1億円の機械を購入せざるを得ず同じ土俵です。

わが社では過去15年間、係長以上(管理者)による残業・休出の指示が無いにも関わらず、又生産量が激減している時でも新規受注の立ち上げに高技能者は繁忙を極め、364日稼働を維持しております。私は常日頃「自分の意思・考えで一步踏み出して下さい」と言っております。残業の必要性も社内の物の流れを見れば自主判断できます。上司からの残業指示を受身で働けば疲れが溜まります。ここ3ヶ月間は材料支給品の遅れ・短納期・不良品の戻拭いの為に予定を立てられず、受身・嫌々の気持ちで(残業)仕事に取り組まざるを得ない状況でしたが、皆さん同士の励ましや協力で何とか乗り切り正常化しつつあります。その自己修正力には敬意を表すると共に感謝しております。飽くなき高精度追求、特に部品造りにおいては1mの大きさの製品を一般的な精度が20μ(ミクロン、1/1000ミリ)のレベルを5μ(毛髪は50μ)まで可能です。受注価は他社の加工時間より30%早く作ればそれだけ安く出来ますし、納期も通常2週間のところ1週間で納められれば客先から信頼されます。何と言っても優劣を数値表現出来る、こんな素晴らしい業界はありません。昨年・一昨年は我が社にベビーブームが到来し、今年からはマイホームブームを迎える兆しがあります。更に私が期待したいのはウーマンパワーブームです。今年の夏に創業以来初めて女子高校生15名弱の企業訪問を受けましたが、質疑応答の内容も含め「眼つき」が男性以上にしっかりしており心強い限りです。一昨年に短大生2名が入社され、組み立て現場を経て総務・業務で私の期待以上に周りから信頼される仕事振りで大活躍しています。おとこ社会? 変な先入観や潜在感を私自身取っ払って若々しい柔軟な発想で、女性のキーマンを育てる目標を新たに付け加える事をここに宣言します。

オール栗津QC大会を見学して

第2係 田中

7月3日にコマツ栗津工場で行なわれた大会を見学に行きました。多くの会場がある中で私はコマツ協力企業の発表会場に向かいました。発表の内容は組立、加工、溶接など色々な作業があり正直私には難しく理解することがあまり出来ませんでした。同行した池田さんは「判り易くまとめられていて理解出来た!」らしくすごいと思いました。

ただ6月に行なわれた社内QC大会と比べると弊社のQC活動はレベルが高いように感じました。QC活動は仕事が楽になったり利益が上がったりするので、重要な活動であることを学びました。この見学で得た事を実際の活動に取り組む際に活かしていけるようにまだまだ勉強していきたいと思えます。

憧れの奥穂高

組立課 課長 篠嶋



7月30～31日 憧れの奥穂高岳(3190m)に行ってきました。

奥穂高岳といっても知らない人が殆どだと思うのですが、富士山(3776m)、北岳(3193m)に次ぐ日本で3番目の高さをもつ山です。私の趣味に登山が加わったのは、2005年に誘われてなんとなく行った穂高でした。その時は途中の唐沢(2400m)まででしたが、そこで目にした前穂高岳(3090m)、奥穂高岳(3190m)、北穂高岳(3106m)は、雄大で今まで目にした事のないような圧倒的な存在でした。夜は無数の星が輝き、流れ星が何回も見られました。それから何回か穂高行きの計画を立てましたが、大雨などで中止になったりとなかなか行く事が出来ませんでした。ここ3年で白山を8回も登り、経験も少しづつ積み上げ念願の奥穂高岳に友人と2人で行って来る事ができました。

登山に行く知らない人でもすれ違えば必ず挨拶をします。きつい登りの場所では、「もう少しだから頑張ってください」とお互いに励ましあったり、山小屋で隣に座れば「何処からきたの」と気さくに話かけられます。

今の日本は近所付き合いも少なく仲の良い小グループだけを大切にしている傾向にありますが、山には古き良き日本の姿があるように感じます。登山はきついですが、きつい思いをした分だけの何かは持ち帰る事が出来ると思います。是非、皆さんも Let's climb a mountain!!



充実した笑顔の篠嶋(左)



9月

10月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4						1	2
5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23
26	27	28	29	30			24	25	26	27	28	29	30
							31						